

令和元年度『奥州市の将来を語る会』の意見等に対する今後の対応

1 (テーマ) 地域住民が主役となるまちづくりの推進

A班 「トガリ」ある街をめざせ！

① 地域の特産品を活かした奥州ブランドを作る

旧市町村の特産品はあるのだが、奥州市全体として自慢できる強みがないので、「〇〇といえば、奥州市」となるように、奥州市全体の特産品を加工して特色ある、突出したブランド化を進める必要があるのではないか。

ご提言のとおり「〇〇といえば、奥州市」といえる地域ブランドができることにより、奥州市の知名度向上、強いては、奥州市の強みにもつながることが期待できます。現在、市では、6次産業化推進における新商品開発等の事業に対し支援する補助事業を実施し、地域ブランド確立に向け取り組んでおります。

一方、新たなブランドの創出により、既存ブランドを廃止することは、これまでの歴史・伝統・文化などの減退にも繋がりがかねないことから、既存ブランドにおける維持・向上にも努めてまいります。

② 自然の資源を活かしたアウトドアスポーツのテーマパークを作る

奥州市にある様々な場所や、いろんな自然の資源を活かして、そこで体験できるアウトドアスポーツのテーマパークを作り、その地域の特色を生かした観光名所にし、人を呼び活性化につなげたら良いのではないかと。

現在、市では、胆沢ダム周辺の魅力発信に力を入れております。特に、自然を活かした体験型観光のメニュー構築の確立に向け取り組んでいるところです。

近年では、カヌー、ラフティング、SUPなどの水を活かしたスポーツが実施されており、「観光資源」としての活用が期待されております。

胆沢ダム周辺を広範囲なテーマパークとして捉えるとともに、自然を活かした取り組みができるよう検討してまいります。

③ 地域の特性を活かしつつ一体感のある奥州市の祭を作る

厄年というお祭りの一体感を更に生み出すため、それぞれのお祭りプラス奥州市民がみんなで踊れる曲と踊りを作成してみてもどうか。

現在、各地域のイベントや祭りは、それぞれの地域において、実行委員会等の組織により運営されており、その歴史や伝統は尊重すべきものと考えます。

奥州市には、歴史、文化、自然、食材などの地域資源が豊富にあり、合併により、さらにこれらの資源の多様性は広がっているところであります。こうした地域の資源が持つ独自の価値を再発見し、創造的なデザインのもと活用を図りながら、旧自治体の枠組みを超えた、業種横断的な取り組みが必要と考えております。

新たなイベント等の開催については、市民融和の一つの契機として捉え、互いを認め合い尊重しあうのはもちろん、地域資源の多様性が新たな意識を生み出す大切なものであることを再認識し、発展的に新しい歴史文化、風土を創造しようとする胎動を起こすべく、奥州市はひとつの理念のもと具体化に向けて検討してまいりたいと考えております。

B班 奥州フルコース

① 各地域のお祭りへのクラウドファンディングの導入

奥州市の特徴である厄年のお祭りを継続するため、市の補助金や、クラウドファンディングなどにより、資金を調達できたら良いのではないかと。

クラウドファンディングとは、「新規・成長企業等と資金提供者をインターネット経由で結び付け、多数の資金提供者から少額ずつ資金を集める仕組み」とされており。

また、各地域のお祭りを実施するにあたっての課題としては、後継者不足、出演者不足、屋台等の老朽化対策、資金不足などが課題として挙げられております。

このことから、既存のお祭りを継続していくため、クラウドファンディングを導入することにより、課題の一部は解決することも見込まれますが、資金面だけでない課題も顕著となっておりますので、総合的な検討が必要となっております。

② お祭りをスポーツイベントなど、形を変えて継続していく

お祭りの参加者が少ないので、仕事・職場の環境や、実施方法の形を変えて参加者が増える工夫を行うべきではないかと。

A班の③「地域の特性を活かしつつ一体感のある奥州市の祭を作る」と同様

③ 奥州市の各地域の特産品を活かしたワンプレートを作る

奥州市の各地域にある特産品を活かして、一つのプレートにして提供できたら良いのではないかと。

令和2年3月に策定予定である「地産地消推進計画」において、具体的な取り組みの中で、観光・イベント等における取り組みとして、飲食店等と生産者・JA等の情報交換の機会づくりの支援に取り組むこととしています。その際に、今回の提言についても検討する場を設けるよう取り組んでいきたいと考えています。

C班 選ばれるまち

ここに居なければならないという義務感ではなく、ここに住みたいという選択できる街にする必要がある。

① 奥州を選んでもらえるような補助の充実

空き家の改修費用の補助や、公共料金の負担など。

ご提案のとおり、「奥州市に住みたい」方を増やすためには、補助金は有効な手段の一つと考えられます。

公共料金など生活費に係る市の負担については、全世帯を対象とした場合は相当の経費が見込まれ、既存の事業の縮小・廃止が必要となることから、まずは、現在行っている子育てや医療、低所得者向けなどの支援を継続し、今住んでいる方が生活できる環境を整えることが最優先と考えております。

また、ご提案いただいた空き家改修の補助については、空き家対策推進の一環として、現在検討を進めております。市内の空き家物件を紹介する空き家バンク事業と合わせて運用することで空き家の利活用・流通を促し、「空き家の解消」と「定住促進」につなげていきたいと考えております。

② 魅力ある仕事を選択できる環境の整備

企業誘致で大きく資金を使うのではなく、空き家を活用して個人事業主であるユ

一チューバーを呼び込み、奥州市の魅力を発信してもらい、個人個人のいろんな目線から見てもらい、いろんな人に選んでもらえたら良いのではないか。

市内における魅力ある仕事を選択できる環境づくりを進めるため、先端産業から伝統産業まで地域企業の振興を図るとともに、新たなビジネスモデルの構築（創業・起業）に対する支援も必要であると考えております。

このため、個人事業主の方々が市内で事業を展開するための支援策として、ハード面では創業・起業・事業改革等のやる気をもって新たな事業にチャレンジする事業者の方や、創業時点において40歳未満の若手創業者などが出店する際に必要となる経費の一部を補助しており、ソフト面では「奥州市創業支援計画」を策定し創業セミナー等の開催により創業に必要な知識習得の支援を行うとともに、専門の知識を持つインキュベーションマネージャーによる伴走型支援により、創業に関する相談のほか創業間もない事業者に対する経営相談などの支援も行っております。

これら、各種支援策について融資機関や商工会議所等の関係機関と連携し取り組むとともに、創業希望者に対しても広く周知を図ってまいります。

③ 安心して出産できる環境の整備

遠隔で検診するシステムの構築や、虫歯ができない街づくりのため、歯の生え始めからの無料検診を実施したら良いのではないか。

平成30年7月より妊産婦タクシー助成券交付事業を開始しております。利用者の意見等を聞きながら、より良い制度になるよう検討してまいります。

出産後安心して子育てができるよう、授乳や育児の相談が受けられる、産後ケア事業を行っております。関係機関との連携を図りながら推進してまいります。

2 (テーマ) 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

(7票) 親と子供の時間を確保するため、子育て世代の労働時間の短縮を図る。

核家族・共働きの世帯の増加により、子どもの預かり時間を延長を望む声もあるが、原因として、長時間労働により子供と接する時間が減ってきていることがあげられる。子育て環境が向上するよう、親の生活にゆとりが生まれるような労働環境を整備し、親と子供の時間確保を推進する必要があるのではないか。

育児・介護休業法では、一定の要件を満たす労働者が小学校就学前の子を養育するために請求する場合には、その労働者に深夜（午後10時から午前5時まで）労働をさせてはいけない、また、3歳に満たない子を養育する労働者に対し、労働者が希望すれば利用できる短時間勤務制度を設けなければならないと規定されており、これらの申出や取得を理由とした解雇や減給等の不利益な取り扱いについても禁じられております。

しかしながら、法的に取得可能であっても、前例が無かったり周囲が取得していない等の理由により取得しづらい環境であったり、従業員の方々が制度をよく理解していないなどといった問題から、実際には取得しづらいケースも見受けられるようです。

これらの状況から、子育て世代に限らず労働者の方々が仕事と生活の調和がと

れた多様な働き方の実現に向け、企業に対する定期訪問、企業向けセミナー等の開催による制度周知・普及を図るとともに、その制度を利用しやすい社会づくりなどに向け、関係機関と連携し啓発活動等に取り組んでいきたいと考えております。

(7票) 岩手県立児童館「いわて子どもの森」に類似する施設を設置する。

奥州市には雨天時などに子供が遊べる場所が少ない。子どもの森のような屋内・屋外、キャンプ場のような、市外の観光客なども来る施設が必要ではないか。

この件については、「いわて子どもの森」のような、屋内で遊べる無料の施設が欲しいとの意見でしたが、既存公共施設の維持管理や財政状況の関係から、新たな施設整備は計画しておりません。

市では無料で利用できる屋内型の施設として、「親子ライブラリーえほんの森」(水沢メイプル地下)や「幼児体育室」(奥州市総合体育館 Zアリーナ)を設置しているほか、各種体験活動ができる「衣川ふるさと自然塾」といった、コテージ、キャンプ場等の宿泊施設も整備していることから、まずは、それら施設の活用を考えていただきたいと考えます。

なお、子育て支援拠点として「エンゼルプラザみずさわ」(水沢メイプル地下)を開設しております。現在、平日のみの開設となっておりますが、今後は、その拡充について、検討してまいります。

(5票) 不妊治療のできる環境を整備し、その費用を支援する。

子どもができなくて困っている人が増えてきている。奥州市には不妊治療のできる病院がないため、その治療を受ける環境を整備し、その費用も負担するなど、出産に至る前の対策が必要ではないか。

現在、体外受精などの特定不妊治療及び人工授精や男性不妊などの一般不妊治療に対する助成金制度を整備しております。

今後は、不妊症と診断されるまでの各種検査に対する助成制度の拡大や不育症に対する助成制度創設の可能性について、検討してまいります。

(4票) 子供手当を引き下げ前に戻してほしい。

子どもの出生数が減少している背景に金銭的負担を心配する声が多い。多子世帯の負担を軽減するため、3人目、4人目の手当を増額するなど、引き下げ前の額若しくは増額してほしい。

この件につきましては制度が変わり、現在、児童手当法に基づき児童手当を支給しております。

国の制度に基づく手当であることから、全国一律の支給となりますが、市独自の上乗せ制度については考えておりません。

(3票) 多くのパパが参加しやすいパパ教室を開催してほしい。

我が子の誕生後、何をしたらよいかわからないパパが多いので、パパ教室や父子手帳の交付などで、乳幼児の世話と産前・産後の母体について理解と体験する機会を設け、パパが積極的に育児をしていく環境を整備する必要があるのではないか。

パパママセミナーを土曜日に開催しておりますが、参加者からの希望を取り入れ令和2年度から参加の時期を早め、夫婦一緒に体験できるよう内容を変更した

ところです。

出生時の手続きで新生児の特徴や遊び方をリーフレットとしてお渡ししておりますが、父親の積極的な育児参加について啓発に努めてまいります。

(3票) 予防接種のお知らせをその都度送ってほしい。

前もって送付された予防接種の時期を忘れてしまう家庭が多いようだ。忘れずに予防接種できるように、その都度送ったほうが良いのではないか。

現在、予防接種毎に、予防接種時期に合わせて通知書をお送りしています。乳幼児健診や就学時健診の際に、保健師等が接種状況を確認し、未接種の場合は保護者に接種を促します。それでも未接種の場合は、接種期間の期限間近にも通知書をお送りしております。

通知の送付漏れが無いように、接種状況の把握に努めてまいります。

(3票) 学校のトイレを改修してほしい。

体育館に和式トイレしかない学校がある。洋式トイレの普及により、慣れない和式トイレを使用できない児童が増えてきているので、洋式トイレに改修する必要があるのではないか。

学校施設のトイレの洋式化は、洋式化率の目標を当面 50%とし、全体的な均衡を考慮しながら、男女と児童職員別に割合の低い学校を優先して計画的な整備を進めています。

平成 30 年度末での小中学校での洋式化率は全体で 46.1%、体育館だけでは 38.6%となっていますが、目標とする 50%に達した後も、和式・洋式のバランスを考慮しつつ洋式化率の一層の向上を図ってまいります。